

▲50歳を越えてから山林経営を始めた檜谷利雄さん（左）と清水守さん（右）

特別
レポート

林業後継者 50歳からでも遅くない!

林家（森林所有者）の最大の悩みの一つが、後継者問題とされています。特に、自ら植え、育ててきたご高齢の方々にとって、「後継者不在」はとても寂しいものです。

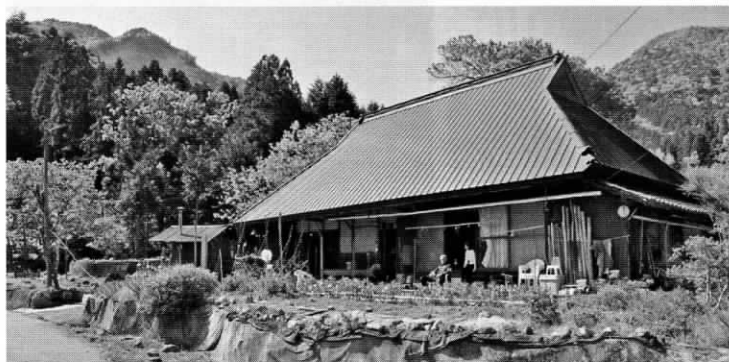
一方で、団塊の世代の方々を中心にUターンで故郷に戻ってくる話を聞きます。そうした方々の中には、親と同様にやはり山へ関心を持ち、手入れや経営に着手する例もあります。昔は20〜30歳代が後継者とみなされましたが、弊誌では、50歳以降でも素晴らしい後継者と位置づけられます。

家族（伴侶）とともに戻ってきて、たくさんの社会経験を地域に還元しつつ、人生80年と考えれば、あと30年間も現役で山と共に暮らしていけるのです。これこそ、豊かな第2の人生のはずです。

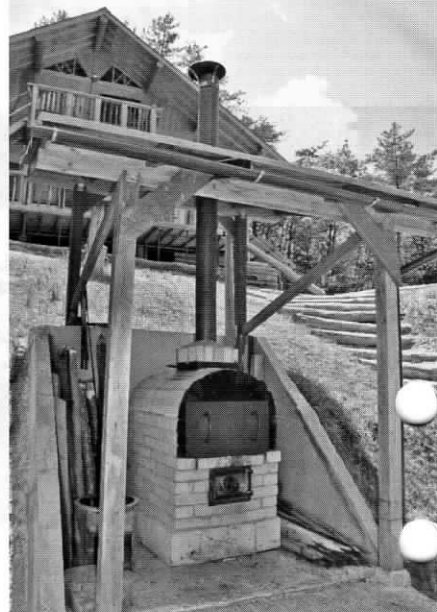
では、実際に50歳以降から経営に着手した方々は、どういうことを考え、どういう具合に開始され、現在どのようなことを行っているのでしょうか。檜谷利雄さん（66歳・広島県）と清水守さん（52歳・新潟県）のお二人に、山でお話を伺いました。（編集部）

55歳で山を継ぐ

大手自動車メーカーに勤務していた檜谷利雄さんは55歳のとき、7haの山を引き継ぐこ



▲古くなった家の解体も考えたが、娘さんから「壊さないで」と頼まれた。夏には孫たちの良い遊び場となる



▶利雄さんが所属する「NPO法人ひろしま自然学校」のピザ釜は、現職時代「焼き入れ炉」での仕事経験がある利雄さんが製作した。孫たちもイベントでは一緒にパンを焼く。ログハウスは会員の手によるもの

役場を退職して農林業へ

新潟県湯沢町の清水守さん（52歳）は、18

記事は
←ニから

月1万円分は大きくなってしまっている」と言っていた言葉を思い出し「まんざらウソではないな」と感じたそうです。
7 haの所有林の手入れは一段落着きました。今では、林業会社でアルバイトをする程の技術を身につけた檜谷さん。「山仕事には定年がないから、75歳くらいまでアルバイトに通って、その後で自分の山をまたやろうかな」と考えています。また、高かった血糖値は山仕事を始めて正常に戻りました。「職場のOB



▲スギの葉を集めてインテリア風に加工し、「焼き付け材」として商品化したい」と清水さん

歳から勤めた役場を50歳で退職して、父の跡を継いで「やってみたかった」という農林業経営に着手しました。

2人のお子さんはまだ小学生ですが、「今のところ、子どもにはそれほどお金がかかりません。母もまだ元気で手がかからないので、タイミングは今しかなかったんです。今にして思えば、定年退職後からでは力が続かなかったと思います。3年ほどで経営を軌道に乗せたいという計画のもと、隣市の市役所に勤めている夫人の理解も得て、第2の人生をスタートさせました。

それまでは役場の仕事に専念し、農林業の経験はなかった清水さん。それでも、父が生



幕を張り、テーブルやベンチ、ストーブなどを設置。荒れた林内がくつろぎの空間へと生まれ変わった



▶道沿いにある25年生のスギ林には、来訪者を歓迎する看板が掲げられている

前に植えたスギ林が荒れているのを目にして、「何とかきれいにしてやりたい」という気持ちがあわき上がってきたそうです。「林業の知識は全くなかった」ので、管内で県が主催する「休日林業入門講座」という通年講座に参加。そこで山林管理の基本知識やチェーンソーなどの技術を学びました。

所有林は5カ所に計2ha。戦後に入会林を分割した山のため、幸い境界も明らかでした。チェーンソー2台、薪割り機、チップパーシユレッタ、中古のバックホウを購入し、まずは自宅近くの道沿いにある25年生のスギ林の間伐を始めました。手入れた林内では、ギョウジャニンニクのほか、コシアブラ、タラノキ、ワラビを栽培しています。収入は木材に求めるのではなく、山菜栽培、特にギョウジャニンニクに期待しているそうです。

「山菜は販売までに5年ほど期間がかかる」ため、並行して畑で「こだわり」の野菜を作っているとのこと。雪の下から掘り出すキャベツや、糖度を19まであげたトウモロコシ、甘みと香りが強い枝豆などです。これらの産物は、清水さんが作ったホームページ「大源木農園」(<http://daigenki-noen.jp>)で直接、消費者に販売しています。

ホームページでは、産物の特徴や生の過程

程だけでなく、農園の近況や山、林業のことまで、清水さん自ら楽しく綴り、顧客などとの交流の場となっています。

山林所有者の特権

間伐後、林床に山菜を栽培している山を案内していただきました。道沿いにあり、平坦で、すっきりと見通しがよく心地よい空間です。清水さんはここに天幕を張り、イスとベンチ、ストーブなどを置き、チェーンソーカービングの招き猫、看板を設置。来訪者があれば、楽しく語り合える場所として整備しました。林内には、乾燥中の間伐材や薪、焚きつけ用のスギ葉、シイタケのほだ木、カービングの作品、機械類が置かれ、さながら「男の秘密基地」といった様相です。

「理想の山づくりは、山持ちだけに許された



▲間伐後の林床で栽培しているギョウジャニンニク。適度な木漏れ日が丁度いいそうだ

食害対策防護ネット



苗木・苗木・柵・樹皮はぎ

ザブリガード

どんな木、どんな環境、にも対応!!



超高強度支柱
スーパーポール

網目大きさを規格多様
幅広く取り揃えております

●お問い合わせ、資料請求は下記まで

地球にやさしいネットワークを広げます

大一工業株式会社

〒636-0103 奈良県生駒郡斑鳩町幸前2-8-24
TEL.0745-75-2645 FAX.0745-75-6365
http://www.nara-daiichikogyo.co.jp

「特権」。これは、林業の「はを学」。「休日林業入門講座」で、清水さんの心を捉えた言葉です。そこで清水さんは、「プラスのオーラの出る森林」、「人が立ち寄りたくなる林」を作ろうと決意。居心地のいいスギ林と、林床での山菜栽培の両立を目標にしています。現在はまだ、投資が先行して収入が追いついていない、と清水さん。それでも、ホームページでの直販には手応えを感じています。「勤めていた頃より忙しいんですよ。でも、好きな農林業で食べていければ、これほど幸せなことはないですね」と笑う表情は、お金には換えられない充実感に満ちています。「下の娘がここへ遊びに来ることもあるんですが、『私が継ぐわ』と言ってますよ」。清水さんの笑顔が一段と輝きました。



▲実生のコシアブラを残して下刈りし、養成中。山菜業者の無断侵入には頭を悩ませる

檜谷さんと清水さんだけでなく、全国には50歳を越えてから山を継ぎ、山林管理を始めた方がたくさんいらっしゃいます。規模が異なれば山に求めるものも自ずと変わり、収入、楽しみや生きがい、健康、山とともにあるライフスタイルなど、実に様々です。いずれにしても、清水さんが話すように、山林所有者は「特権」階級だと考えてみてはいかがでしょうか。あなた（あるいは、これから山を託す予定のご子息・ご息女）の工夫次第で、さらに豊かな第2の人生を実現できるはず。これらは、山を持つていない人には到底できないことばかりです。ぜひ一度ご家族で、山の将来について話し合ってみませんか。